

日本人の

忘れもの

第2部 忘れもの 42

妖怪文化

長らく忘れられていた「妖怪文化」の伝統が、近代化の過程で多くの伝統的な文化が撲滅の対象となってきた。その中に「妖怪」も含まれていた。ここから「妖怪」とは「不思議な現象」あるいは「不思議な現象を引き起こす霊的な存在」を意味している。通俗的な言葉でいえば「怪異」「化けもの」「お化け」のことである。例えば、狐や狸が人に化けてしまったり、人に乗り移って病気にしたりするといったことが信じられていたが、こうした現象は科学的・合理的に説明できるものであるとされて、私たちの生活から追放されていったのであった。こうした撲滅活動それ自体は、誤ったものでは無い。科学的・合理的な精神を高くもち、もって近代人としての日本人が誕生したのはまぎれもない事実である。

生活から陰影がなくなることで、日本文化を忘れ去っていいのかが、

しかしながら、民俗学者の柳田国男が『妖怪談義』の中でこうした撲滅運動を嘆いたように、日本人の生活のなかに生きていた化けもの・迷信の歴史をも否定し、そんな歴史はなかったかのように振る舞うのは、いかがなものだろうか。科学技術の発展によって生活が便利になり豊かになったのもたしかである。このことを否定するつもりはない。しかしながら、谷崎潤一郎が『陰影礼賛』の中でやはり嘆いていたように、生活の中から陰影がなくなっ

●こまつ かずひ
1947年、東京都生まれ。東京大学大学院博士課程修了後、信州大学教授、大阪大学助教授、国際日本文化研究センター教授を経て、12年に同センター所長に就任。文化人類学や民俗学が専門。鬼や民俗宗教、妖怪を研究を通して、日本文化や日本人の精神性を探る。「京都府内」妖怪文化入門」など著書多数。



小松和彦
国際日本文化研究センター所長

妖怪文化は、自分を映す鏡であり、一種の精神安定剤であり、想像力を羽ばたかせる精神世界の領野である。



「破奇術頼光博垂為頼(きじゆつをやぶつてよりみつはかまだれをからめんとす)：大蛇」歌川芳龍(国際日本文化研究センター蔵)



日本人は、妖怪という存在を媒介しながら、豊かな文化を生み出してきた。その文化の遺産・残存が現代に息づき、また新しい文化の創造の糧となっている。「東海道五十三次内小田原：河童」歌川芳龍(国際日本文化研究センター蔵)

妖怪文化を注視することは、その知恵を現代に生かすこと

こうした先輩たちの言葉に導かれて、私は陰影のある生活の中ではなく、まれに発展を遂げてきた妖怪たちの足跡を発掘しつづけたという作業に取り組んできた。その結果わかってきたのは、日本人は、妖怪という存在を媒介しながら、まことに豊かな文化を生み出してきたということであった。しかも気がつかないでいる文化の遺産・残存が現代にも息づいており、また新しい文化の創造の糧ともなっているのである。

妖怪文化を注視するということは、

ていくことによって、それが作り出していた日本文化を忘れ去っていいものだろうか。

戦後、日本人は物の豊かさ引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

科学的思考や合理的な精神を捨てて迷信の世界に戻れというのではない。その中に学ぶべきことや吸収すべきことがたくさん見出されるので、それを現代に生かそうということなのである。大蛇や河童などの妖怪の物語には自然への畏怖が、捨てられた古道具の妖怪の物語には道具への感謝の念が、幽霊・怨霊の物語には人間関係のあり方が語り示されているのである。それらの物語を読み解くことで、かつて日本人の心のありようが浮き上がってくるのである。

妖怪と付き合ってきたわかつてきたのは、妖怪文化は自分を映す鏡であり、一種の精神安定剤であり、想像力を羽ばたかせる精神世界の領野である、ということであった。とすれば、妖怪文化は現代人にとって忘れてはならないものであり、慎重な扱いが求められるにせよ、現代日本人にとって大切な遺産でありまた共有財産として活用すべきものなのである。

きょうの季寄せ(四用)

いたいに
暇つくばふ
浮葉哉

仙化



蝦は蛙のこと。水面に浮いているこの葉は蓮の葉であらう。この上に蛙が可憐に這うようにかきこまっていたのである。簡便な絵で、おなじみの光景ではないか。

芭蕉の「古池や蛙飛こむ水のおとこに番えた掲句を一番として20組までを一番とした、世に「蛙合」と称して残している。蛙をどう詠もうとしたか、美意識に満ちた詠歌集だ。(文・岩城久治)

「きょうの心伝」

和岡伸子
京都市南区/66歳

ほたえる

「それほど、ほたえたらあかねでもっと静かにせんかいな」と、子どもの頃、父や母がよく言っていた。学校では先生が、道端や店先などでは近所のおじさんやおばさん、お店の人が注意をしてくださった。そしてそれを素直に聞いたものだ。

昔は、こういう注意を誰かになしに、どこの子どもたちにもしつけという意味から出来た時代だったと思ふ。だがいつの間にか、よその子どもたちに注意を出来ないようになってしまった。また昨今では「ほたえる」ほど子どもたちが外で遊ぶ姿も見かけなくなり、キャラクター騒ぐ声もあまり聞かなくなっている。私の孫も含めて学校から帰ると、宿題に塾、習いごと、家にもゲームをするなど、子どもたちの遊び方も変わわり、「ほたえる」ことが少なくなってきたように感じる。

私たちが親から聞かされて育った言葉が、だんだんと消えていき、子どものしつけまで変わってしまったことは残念で心寂しく思ふ、今日のこの頃である。

「きょうの心伝」募集

●あなたも「きょうの心伝」は何ですか? 暮らしの中で忘れてはならないと思う日本人の心の常識や、伝えたが京都に残る心遣いをお寄せ下さい。京都新聞社で選考、公開する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル(12文字以内)と本文(400文字以内)、郵便番号、住所、氏名(匿名は不可)、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8577 京都新聞COM「きょうの心伝」係まで、
E-mail: yasunenonoh@kyoto-np.co.jp
Fax: 075-26212200
http://kyoto-np.jp/kyo_np/info/nvc/



武田病院グループ

～心がかよう、心が安らぐ、環境づくり～
http://www.takedahp.or.jp/

施設名称変更のご案内

4月1日より、武田病院グループが管理・運営している一部病院・クリニックの名称が変わりました。地域の皆様様に運営管理者の明確化と親しみをいただき、より一層、グループ施設間の連携を強化するための名称変更です。

これにより、武田病院グループは今後ともさらなる理想の医療を追求し続けてまいります。



Bridge The Gaps
ブリッジザギャップ(橋をかける)

武田病院グループは、患者さんとの間に思いやりと信頼のかけ橋を、地域社会との間に信義と信頼のかけ橋を、すべての職員の間で心と心をつなぐ信頼のかけ橋をつくりあげる努力を重ねます。

医療法人財団 康生会
北山武田病院
(旧名称: 城北病院)
京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町99番地 TEL.075-721-1612

山科武田ラクトクリニック
(旧名称: ラクトクリニック)
京都市山科区竹鼻竹ノ街道町92番地 ラクトC301 TEL.075-581-0910

山科武田ラクト健診部門
(旧名称: ラクト健診部門)
京都市山科区竹鼻竹ノ街道町92番地 ラクトC301 TEL.075-581-6696

医療法人財団 医道会
十条武田リハビリテーション病院
(旧名称: 十条リハビリテーション病院)
京都市南区吉祥院八反田町32番地 TEL.075-671-2351

稲荷山武田病院
(旧名称: 稲荷山病院)
京都市伏見区深草正覚町27番地 TEL.075-541-3371

■医療法人財団 康生会
武田病院 (既存施設)

■医療法人 仁仁会
医仁会武田総合病院
精華町国民健康保険病院(指定管理者)
老人保健施設 白寿
老人保健施設 いわのり

■宇治武田病院

■木津屋橋武田病院

■医療法人財団 宮津康生会
宮津武田病院

■社会福祉法人 青谷福祉会
軽費老人ホーム ヴィラ城陽
城陽市立東部デイサービスセンター
特別養護老人ホーム ヴィラ山科
加茂町高齢者福祉センター
特別養護老人ホーム 加茂の里
ケアハウスあじさい
特別養護老人ホーム ヴィラ稲荷山
三条小川デイサービスセンター

■社会福祉法人 悠仁福祉会
特別養護老人ホーム ヴィラ鳳凰
ケアハウスやまぶき

…全57施設